

## 入選

### 少しの勇気の先にまほうの言葉

鹿児島県 池田学園池田小学校 四年  
内匠 貴己

「いっしょに行きます。」

と言って、わたしは手をのぼし、おばあさんのおうでをとりました。そして、おばあさんを支えながら歩きだしました。

「あら、ありがとう、とっても助かるよ。やさしいね。」

と、おばあさんは笑顔でわたしの手をにぎってくれました。その手は温かく、わたしのことを信じてくれている気がして、心がほわっとやさしい光でいっぱいになるような感じがしました。何ともいえないまんぞく感と、「ありがとう」と言ってもらえたうれしさと、わたしは自然と笑顔になり、しっかり支えなきゃ、と責任感がわき出てきました。

父が働く眼科では、入院しているかんじゃさんの日曜回しんがあり、わたしは、それを手伝うことがあります。しんさつが終わり、病とうに帰るかんじゃさんの手の消どくや、ゆうどうするのが、わたしの仕事です。しっかりと歩けるかんじゃさんも多いのですが、眼科なのでしやがせまい人、しりよくが弱い人、お年よりで足こしが悪い人など、人それぞれです。

「終わった方は、こちらにおねがいします。」と、みなさんに声をかけると、

「お父さんの手伝いをして、えらいね。」

と言ってもらうことがあり、心の中ではいつも、「えっへん」と得意気な気持ちになります。

ある日の回しん時、こしが曲がってつえをついているおばあさんがいました。歩くのもとってもゆっくりで、立ったりすわったりも大変そうでした。病室へ戻るのも大変だろうなと思ったとき、いっしょに手をつないで歩けば、少し楽になるかもしれない、と思いつきました。

しかし、話したことの無いおばあさんに、何て声をかけたらいいのだろう、もしことわられたり、おばあさんがいやな気分になったりしたらどうしよう、とわたしの消きょうくてきな面が、ぐるぐると頭の中をかけめぐりました。

「よし。」

わたしは、心の中で勇気を出すと決め、おばあさんに声をかけました。心ぞうはバクバクです。声をかけちゃった、と後かいする気持ちが出てきたところに、おばあさんから、「ありがとう」という言葉が返ってきました。そのとたん、「声をかけてよかった」とホッとした後に、どんどんうれしくなってきたのです。

人の役に立つということは、とてもうれしいことです。ほんの少しの勇気をもって行動することで、その分だけ成長した自分になれたように思います。そして、「ありがとう」という言葉は、言う人、言われた人どちらにとっても、おたがいに幸せな気持ちにしてくれる、まほうの言葉だと感じました。

これからは、どんなに小さなことでも、「ありがとう」と言うことを心がけたり、だれかから「ありがとう」と言ってもらえるような行動をとったりしていきたいといます。